



検査のご案内



検査室では視力、眼圧などの基礎的な検査、メガネ処方、コンタクト処方などを行います。当院では、目の診察の第一歩である視力、眼圧検査は原則として毎回行います。

■ ハンプリー（視野計）

視野検査は緑内障や視神経疾患、頭蓋内疾患、心因性視覚障害など、視野に異常を呈する疾患の診断や経過観察に不可欠です。

患者様自身がその異常や進行に気づかないことも多いので定期的に検査を行い、経過観察をする必要があります。



■ TMS（オーブスキャン）

同心円を角膜に反射させて、角膜の屈折率を瞬時に測定できる装置です。等高線を26色で塗り分け、鮮やかに表示されます。角膜の表面の微妙な歪みなども測定でき、角膜の炎症後の癒痕による不正乱視や円錐角膜の観察などにも役立ちます。



■ OCT

網膜の断層写真を撮って網膜の厚みを調べる検査です。網膜・視神経疾患の早期発見、経過観察に有用です。

■ 眼底カメラ

網膜や視神経・網膜血管など、眼底の状態を撮影し記録します。散瞳薬を点眼し瞳孔を広げることにより、より詳しく観察することができます。（緑内障、糖尿病網膜症などの眼底疾患の他に、動脈硬化や高血圧による血管の変化を知ることができます）



■ 超音波エコー

眼内及び眼窩における異常の検出や、病変の診断を行い、2次的に画像化されます。

■ 眼軸長測定

白内障の手術の際、混濁した水晶体を取り除き、人工の眼内レンズを入れます。このレンズにもメガネと同様に度があり、患者様の個人個人にあったレンズを選ぶ必要があります。この検査では、目の長さを測ることで患者様に必要なレンズを選出し、その結果を元に眼内レンズの度数を最終決定します。



■ 暗室・レーザー治療室

眼科の検査は、部屋を暗くしなければならない検査が多数あります。この部屋では、視野検査、眼底写真、角膜形状解析検査、網膜機能検査などを行います。また、レーザーによる治療もここでを行います。この部屋にある検査機器、レーザー機器は、最新かつ最良の機器を取りそろえています。

